

# Sun Java™ System Access Manager リリースノート

バージョン 6 2005Q1

2005 年 3 月 3 日

Part No. 819-1946

---

このリリースノートには、Sun Java System Access Manager 6 2005Q1 ( 以前の Sun Java System Identity Server) のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題点と制限事項、その他の情報について説明します。このリリースのインストールおよび使用を始める前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、次の Sun Java System マニュアル Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q1?l=ja>

ソフトウェアをインストールおよび設定する前だけでなく、それ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノート改訂履歴](#)
- [Access Manager 6 2005Q1 について](#)
- [このリリースでの新機能](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
- [既知の問題点と制限事項](#)
- [再配布可能ファイル](#)
- [問題の報告およびフィードバックの提供方法](#)
- [Sun が提供しているその他の情報](#)

このリリースノートで紹介されているサードパーティの URL を参照すると、追加情報や関連情報を入手できます。

---

**注** Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。Sun は、これらのサイトまたはリソースで利用可能な内容、広告、製品、他の資料に関し、それらを保証することも、責任や義務を負うこともありません。Sun は、これらのサイトやリソースで利用可能な内容、製品、またはサービスを使用または信頼することに起因するいかなる直接的または間接的な損害についても責任を負いません。

---

---

## リリースノート改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更の説明
2005年3月3日	表2「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」に一覧表示されている Red Hat™ Linux のサポートされるバージョンを改訂。
2005年2月2日	2005Q1 リリース。このリリースノートの初版。

---

---

## Access Manager 6 2005Q1 について

Sun Java System Access Manager は、急速に成長している企業のニーズに対応するように設計されたアイデンティティ管理ソリューションです。Access Manager によって、社員、提携業者、および供給業者のアイデンティティを1つのオンラインディレクトリに統合することができます。それにより、だれが企業内のどの情報にアクセスできるかに関するポリシーと権限を確立するための手段が提供されます。Access Manager は、すべてのデータ、サービス、およびだれが何にアクセス権があるかを管理するための鍵となります。つまり、内部および外部のあらゆるビジネス関係において重要な役割を果たします。

---

## このリリースでの新機能

Access Manager 2005Q1 には、以下の機能が含まれています。これらの機能の詳細については、『Sun Java System Access Manager Technical Overview』を参照してください。

- 製品名の Identity Server から Access Manager への変更
- Solaris 10 のサポート
- 新しい Web コンテナのサポート : Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1 (8.1)
- 新しい認証モジュール、または変更された認証モジュール
  - Java Database Connectivity (JDBC)
  - Mobile Station ISDN (MSISDN)
  - Active Directory
  - Security Assertion Markup Language (SAML): SAML 認証サポートは認証モジュールとしてリリースされており、SAML 認証が認証スタックの一部に含まれます。
- セッションフェイルオーバー
  - 各インスタンスが別のホストサーバーにあるサポートされている Web コンテナ上で実行されている、Access Manager 6 2005Q1 の複数のインスタンス。
  - Access Manager インスタンスとセッションストアデータベースの間のセッションメッセージを管理する Message Queue ブローカクラスター。
  - セッションストアデータベースとしての、Sleepycat Software, Inc. (<http://www.sleepycat.com/>) によって提供される Berkeley DB。Berkeley DB クライアントデーモンは `amsessiondb` です。
- ポリシー管理の新しいリソース名プラグイン `HttpURLResourceName`
- コンソールの拡張機能
  - ナビゲーション区画で、オブジェクトの 1 つ以上の属性を表示して各オブジェクト型の表示をカスタマイズする機能。
  - ナビゲーション区画のドロップダウンメニューに新しいオブジェクト型を追加する機能 (たとえば、プリンタまたは構築用のエントリの追加)。
- クライアント SDK
  - Java アプリケーション開発者が Access Manager とより適切に統合できるように再パッケージ化された SDK (認証、サービス管理、ユーザー管理、SAML、ポリシークライアント、セッションの各コンポーネント)。
  - `serverconfig.xml` ファイルへの依存の解消と、JAR ファイルのフットプリントの最小化。

- 連携管理
  - Liberty Alliance Project (LAP) Name Identifier Mapping Protocol のサポート
  - LAP Identity Web Services Framework (ID-WSF) Discovery Service Specification 1.1 のサポート
  - LAP ID-WSF Authentication Service Specification のサポート
  - LAP Metadata Description and Discovery Specification のサポート
  - LAP Liberty Identity Federation Framework (ID-FF) Extended Profiles のサポート
    - Dynamic Identity Provider Proxying
    - アフィリエイト連携
    - ワンタイム連携
    - 名前識別子マッピングプロファイル
    - 名前識別子暗号化プロファイル
- Web コンテナとしての Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1 (8.1) の調整に、パフォーマンスチューニングスクリプトが使用可能

---

## ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Access Manager には、次のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

表 2 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	要件
オペレーティングシステム	Solaris™ Operating System (OS)、SPARC® Platform Edition、バージョン 8、9、および 10 Solaris™ OS、x86 Platform Edition、バージョン 9 および 10 Red Hat™ Linux、WS/AS/ES 2.1 Update 2 Red Hat™ Linux、WS/AS/ES 3.0 Update 1
RAM	512M バイト
ディスク容量	Access Manager および関連するアプリケーション用に 250M バイト

## サポートされているブラウザ

このリリースの Access Manager は、次のブラウザをサポートしています。

ブラウザ	プラットフォーム
Microsoft Internet Explorer™ 5.5 SP2	Microsoft Windows™ 2000、Sun Linux、Red Hat™ Linux 8.0
Microsoft Internet Explorer 6.0	Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows™ XP、Sun Linux、Red Hat Linux 8.0
Mozilla 1.7.1	Microsoft Windows 2000、Sun Linux、Red Hat Linux 8.0、Solaris™ 9 および 10、Solaris™ OS、x86 Platform Edition、バージョン 9 および 10
Netscape™ 4.79	Microsoft Windows NT、Solaris 8 および 9
Netscape™ 6.2.1	Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 98、Sun Linux、Red Hat™ Linux Advanced Server 2.1、Solaris™ OS、x86 Platform Edition、バージョン 9 および 10
Netscape™ 7.0	Microsoft Windows 2000、Sun Linux、Red Hat Linux 8.0、Solaris 9 および 10、Solaris™ OS、x86 Platform Edition、バージョン 9 および 10

---

## このリリースで修正されたバグ

次の表に Access Manager 2005Q1 で修正されたバグを示します。

表 3 Access Manager 2005Q1 で修正されたバグ

バグ番号	説明
5050332	Linux システムで、amserver stop により amunixd プロセスが停止しない
5049218	ユーザー管理が無効な場合、ユーザーの検索中にコンソールでエラーになる
5048378	smtp Server Port プロパティが AMConfig.properties で正しくない
5043752	am2bak の実行中に失敗メッセージが表示される
5042100	ポリシー管理者が自分自身のプロファイルを修正できない
5041529	BasicEntitySearch フィルタが uid にハードコードされる
5038600	SAML サービスでユーザーを作成できない

表 3 Access Manager 2005Q1 で修正されたバグ ( 続き )

バグ番号	説明
5037978	組織管理者として定義されたアクセス権を持つロールを作成するとエラーが発生する
5026635	コンソールサンプルがコンパイルされない
5016725	リフェラルポリシーの修正がサブ組織に反映されない
5013994	日本語ブラウザで認証レベルのログインが失敗する
5008960	amadmin が正しくないエラーメッセージを返す
4996479	ポリシースキーマを持つサービスがユーザーに「追加可能」と表示される
4961370	「**」検索マスクが機能しない
4959895	エンティティ記述子の検索フィルタが適切に機能しない
4959071	アイドルセッションが正しくクリーンアップされない
4931907	サービスタイプロールユーザーがログインするとサービスが消える
4931163	ネーミング属性には小文字を使用する必要がある
4930610	am2bak と bak2am のバージョンメッセージが英語
4922030	競合解決レベルのメッセージがロケール固定である
4916683	backup_restore.po の msgid-msgstr ペアのメッセージがローカライズされていない
4853809	サービスの登録に関する問題
4853809	すべてのサービスを登録してもすべての利用可能なサービスが登録されないことがある

## インストールに関する注意事項

amconfig スクリプトでは、Java Enterprise System インストーラを使用して Access Manager の最初のインスタンスをインストールした後、Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1 (8.1) を Web コンテナとして使用して Access Manager の追加のインスタンスを配備できるようになりました。

設定スクリプトの実行については、『Sun Java System Access Manager 6 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。

「[既知の問題点と制限事項](#)」の「[インストール](#)」も参照してください。

---

# 既知の問題点と制限事項

この節では、Access Manager 2005Q1 リリース時での、より重要な既知の問題点について説明します。この節は、次のトピックで構成されています。

- [インストール](#)
- [認証](#)
- [Access Manager のサンプル](#)
- [コマンド行ツール](#)
- [設定](#)
- [Access Manager コンソール](#)
- [連携](#)
- [ロギングサービス](#)
- [ポリシー](#)
- [シングルサインオン](#)
- [Access Manager SDK](#)
- [国際化 \(i18n\)](#)
- [Cookie](#)
- [Cookie ハイジャック](#)

## インストール

セキュリティ保護されたサーバーの SDK インストールで `amadmin` を実行すると例外がスローされる (#5107584)

Access Manager 2005Q1 では、セキュリティ保護された Access Manager のフルインストールをインストールしてから、そのフルインストールを使用するために SDK インストールをインストールすると、例外がスローされる可能性があります。これは、Web Server の `com.ipplanet.am.admin.sli.cerdb.prefix` プロパティに間違った値が設定されているためです。

### 回避策

1. `AMConfig.properties` を編集します。
2. プロパティ `com.ipplanet.am.admin.cli.certdb.prefix` を `https-<ws-instance-name>-<ws-hostname>-` に変更します。

### 3. Web Server を再起動します。

Linux で Web コンテナに AMSDK をインストールすると共有コンポーネントへのリンクが壊れる (#6199933)  
Linux プラットフォームで任意の Web コンテナに Access Manager SDK をインストールすると、共有コンポーネントへのいくつかのリンクが壊れます。

#### 回避策

正しくないリンクを削除し、正しいリンクを作成します。

リンクを削除するには、次の手順に従います。

```
cd ${AM_INSTALL_DIR}/identity/lib
rm -rf jaxrpc-spi.jar relaxngDatatype.jar xsdlib.jar
```

新しいリンクを作成するには、次の手順に従います。

```
ln -s /opt/sun/private/share/lib/jaxrpc-spi.jar
ln -s /opt/sun/private/share/lib/relaxngDatatype.jar
ln -s /opt/sun/private/share/lib/xsdlib.jar
```

#### 参照整合性プラグインへの引数の入力ミスのために、パフォーマンスが影響を受ける (#5029256)

Access Manager が Directory Server の参照整合性プラグインを使用可能にするとき、プラグインの引数 11 の属性名に入力ミスがあります。属性名は、iplanet-am-modifiable-by と指定されます。これにより、組織が削除されると、ディレクトリのエラーログに「search not indexed」警告が生成されません。

参照整合性プラグインでは、引数で指定されたすべての属性が索引付けされている必要があり、索引付けされた属性は iplanet-am-modifiable-by です。これにより、Access Manager のパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。

#### Application Server xercesImpl.jar によって JVM に障害が発生する (#6223676)

/opt/sun/appserver/lib (RedHat Linux の場合) または /opt/SUNWappserver/appserver/lib (Solaris の場合) にある Application Server 8.1 EE の xercesImpl.jar は、/opt/sun/share/lib (RedHat Linux の場合) または usr/share/lib (Solaris の場合) にある xercesImpl.jar の共有コンポーネントバージョンの前に読み込まれます。

Application Server バージョンは、クラスローダによって、共有コンポーネントバージョンの前に読み込まれます。このとき、Application Server の古いバージョンは、処理待ちの状態にある膨大な数の JSP に対応できなくなります。JVM はハングアップするか、または障害が発生します。



## 回避策

`opt/sun/appserver/lib` (Red Hat AS 2.1 または 3.0 の場合) または `/opt/SUNWappserver/appserve/lib` (SPARC および x86 用の Solaris 9 または 10 の場合) にある `xercesImpl.jar` の名前を変更します。JVM クラスローダは、`/opt/sun/share/lib` (Red Hat AS 2.1 または 3.0 の場合) または `/usr/share/lib` (Solaris 9 および 10 の場合) にある共有コンポーネントの `xercesImpl.jar` を使用するようになります。

## AM SDK のインストール中にインストーラでユーザーがプロトコルを入力できない (#6180090)

Access Manager SDK をインストールする場合、「Access Manager: Sun Java System Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ」パネルでは、Access Manager サービスを実行している Web コンテナのプロトコルを入力するよう要求されません。インストーラは、Web コンテナが http プロトコルを使用することを前提にしています。ただし、https プロトコルを指定して、SSL が有効な Access Manager インストールを使用している SDK インストールにアクセスすることが必要な場合があります。

## 回避策

`AMConfig.properties` ファイルで、Access Manager サーバーインストールに関連付けられたプロトコルを `https` に設定します。たとえば、次のように指定します。

```
com.iplanet.am.server.protocol=https
com.iplanet.am.console.protocol=https
```

## Access Manager によってサーバーの CLASSPATH に `servlet.jar` が追加される (#5016348)

Access Manager は、サポートしている Web コンテナ用に、サーバーの CLASSPATH に `servlet.jar` を配置しています。各 Web コンテナの実装にも `servlet.jar` ファイルが含まれているため、このファイルによって予期しない結果が発生する場合があります。

## 回避策

CLASSPATH から `servlet.jar` を削除します。

## Access Manager のサンプル

JDK 1.5 でコンパイル中にサンプルが警告を戻す (#5102149)

Access Manager に含まれているサンプルを JDK 1.5 でコンパイルすると、警告が表示されます。

### 回避策

この警告を回避するには、次の操作を行います。

- JDK 1.5 を使用する場合は、コンパイルのコマンド行に `encoding="ISO-8859-1"` を追加します。  
または
- JDK 1.4 を使用してサンプルをコンパイルします。

SAML xmlsig サンプルに記述漏れがあるためコンパイルエラーが発生する (#5090925)

JDK 1.5 でコンパイルした場合は、SAML xmlsig サンプルに記述漏れがあるとコンパイルエラーが発生します。この問題は、JDK 1.4.2 でコンパイルした場合は発生しません。

### 回避策

JDK 1.5 でコンパイルしている場合は、次の手順に従って `LD_LIBRARY_PATH` を設定します。

1. `xmlsig` ディレクトリで、SAML サンプル用の `Readme.html` または `Readme.txt` ファイルを見つけます。
2. 第3節の「Instructions to set up the XMLSIG sample on Solaris」の手順4で、`LD_LIBRARY_PATH` を `web-server-install-directory/bin/https/lib` と設定します。
3. `LD_LIBRARY_PATH` に `/usr/lib/mps/secv1` を追加して、JSS ライブラリとその依存を指定します。

## 認証

電子メールによるユーザー変更通知が機能しない (#6212964)

管理サービスにある、E-mail によるユーザー変更通知は、現在機能しません。

SafeWord 接続が閉じられない (#5073718)

Access Manager にログインする場合、SafeWord のチャレンジ応答ページに移動して、パスワードを入力しないでおくと、接続にタイムアウトが設定されません。ブラウザを閉じて、SafeWord サーバーでの接続は閉じられません。

LDAP 認証が LDAP Directory Server 接続のために匿名バインドを実行している (#5090018)

Access Manager は、LDAP 接続のために Directory Server にバインド DN とパスワードを渡していません。LDAP Directory Server の匿名バインドが無効になっている場合は、これが認証に影響します。

## 回避策

Directory Server の匿名バインドを有効にします。

### 持続 Cookie モードのプロパティに一貫性がない (#5038544)

持続 Cookie モードでは、トークンで設定されるユーザー ID プロパティに一貫性がありません。このため、ユーザー ID プロパティに依存するポリシーエージェントでもエラーが発生することがあります。

## 回避策

DN 値以外には UserToken を使用し、DN 値には Principal を使用します。

### セッションタイムアウトページを再度読み込むと、ユーザー名とパスワードが有効なユーザーが認証される (#4697120)

ログインページで、ページがタイムアウトになってから有効なユーザー名とパスワードを入力すると、セッションタイムアウトページが表示されます。ユーザー名とパスワードを再度入力しなくてもページを再度読み込むと、このユーザーは Access Manager に認証されます。

### SafeWord サーバーが複数存在する場合に、それぞれ別のディレクトリを指定する必要がある (#4756295)

複数の組織がそれぞれ独自の SafeWord サーバーを使用するように設定している場合には、それぞれ独自の `.../serverVerification` ディレクトリを SafeWord 認証サービステEMPLATE に指定する必要があります。デフォルト値をそのまま使用し、すべてのサーバーが同じディレクトリを使用する場合には、SafeWord サーバーを使って認証する最初の組織だけが機能します。

# コマンド行ツール

### `/opt/SUNWam/bin` ディレクトリの `ldapsearch` および `ldapmodify` ユーティリティが正常に動作しない (#4954779)

`/opt/SUNWam/bin` ディレクトリの `ldapsearch` および `ldapmodify` ユーティリティが致命的エラーを戻します。

## 回避策

`LD_LIBRARY_PATH` 環境変数に `DirectoryServer-base/lib/` パスを追加します。

### Linux で、`am2bak` スクリプトと `bak2am` スクリプトが機能しない (#5053866)

Linux システム上で Access Manager が実行されている場合、`am2bak` および `bak2am` 復元スクリプトは機能しません。

## 回避策

1. 次のコマンドのパスを修正します。
  - `ECHO=/usr/bin/echo` → `ECHO=/bin/echo`
  - `uid='/usr/xpg4/bin/id -un'` → `uid='/usr/bin/id -un'`

- /usr/bin/tar → /bin/tar
  - /usr/bin/rm → /bin/rm
  - /usr/bin/grep → /bin/grep
  - /usr/bin/ps → /bin/ps
  - /usr/bin/ls → /bin/ls
2. check\_for\_invalid\_chars() 関数を変更します。たとえば、次のように指定します。

```
check_for_invalid_chars() {  
echo "$1" | grep '[^/_a-zA-Z0-9a-]' > /dev/null  
if [ $? = 0 ]; then  
return 1  
else  
return 0  
fi  
}
```

#### amadmin が正しくないエラーメッセージを戻す (#5008960)

amadmin の import オプションが、関連するどのエラーに対しても同じエラーメッセージを誤ってスローします。

#### コンソールのみインストールでは amverifyarchive にスワップされないタグがある (#4993375)

Access Manager のコンソールのみインストールを実行すると、amverifyarchive ユーティリティの JSSHOME、JDK\_HOME、BASEDIR、および PRODUCT\_DIR タグがこのスクリプトでスワップアウトされません。

## 設定

#### Linux で、WebSphere Application Server 5.1 が正常に設定された後、起動に失敗する (#6204646)

Linux 上で WebSphere 用に Access Manager SDK コンポーネントをインストールしてから、正しい amsamplesilent ファイルを使用して amwas51config を実行すると、WebSphere が起動に失敗します。

#### 回避策

LD\_LIBRARY\_PATH に、次のように /opt/sun/private/lib を追加します。

```
LD_LIBRARY_PATH="$WAS_LIBPATH":$LD_LIBRARY_PATH:/opt/sun/private/lib  
export LD_LIBRARY_PATH ;;
```

server.xml で、-Djava.util.logging.config.class オプションの前の "/" を削除します。

### Web Server 用に certdb エイリアスが正しく設定されない (#6212532)

Access Manager で Web Server 用に SSL を有効にしてから amadmin を実行すると、「namingservice が使用できません」というエラーがスローされます。ブラウザ経由では、予期したとおりに機能します。

### バックエンド名に関係なく userRoot に索引が常時作成される (#5002886)

index.ldif は、属性の索引を作成するために userRoot をハードコードします。任意のバックエンドデータベース名にあるルートサフィックスを使用して Access Manager をインストールできます。バックエンド名は、nsslapd-suffix=SUFFIX\_NAME をフィルタとして使用するベース cn=config を使用して、ldapsearch で取得することができます。

## 連携

### 連携管理の担当者によって例外がスローされる (#6213102)

新しいプロバイダを作成してから、そのプロバイダに新しい担当者を追加すると、次のエラーが表示される場合があります。

```
The server encountered an internal error () that prevented it from fulfilling this request
```

### amFederation.access ログに対してリモートログが機能していない (#6197608)

リモートログが設定されると、amFederation.access を除き、すべてのログはリモート Access Manager インスタンスに正常に書き込まれます。このログレコードは書き込まれません。

#### 回避策

LogUtils にある AccessController.doPrivileged(AdminTokenAction.getInstance()); を使用します。

### fedCookie の状態が変化しない (#6202574)

SP や IDP の連携ユーザーに対して連携の終了を実行しても、fedCookie の状態には引き続き「YES」が表示されます。この表示は「NO」である必要があります。

### 個人プロフィールコンテナのクエリー / 変更が失敗する (#6189808)

次の個人プロフィールコンテナは、クエリーまたは変更のどちらかの操作で失敗します。

```
LegalIdentity/Gender
```

```
EmploymentIdentity/AltO
```

### 属性値が空の場合 PP Modify に例外がスローされる (#5047103)

Access Manager は、空の属性値で PP Modify を実行すると、例外をスローします。たとえば、sis-ep サンプルをテストするためにセットアップを作成して EP Modify ページを送信し、属性に値をまったく入力せずにボタンをクリックすると、例外が誤ってスローされます。

### ポリシーを有効にするにはサーバーの再起動が必要 (#5045036)

連携ポリシーの実装はサーバーを再起動するまで有効にはなりません。Application Server と Web Server の両方がこれに該当します。新しくインストールした後およびポリシーを最初に実装した場合にのみ、サーバーを再起動する必要があります。

## Access Manager コンソール

### DIT 内に多数のピープルコンテナが存在すると、ユーザーを作成できない (#5079609)

多数の (1000 を超える) ピープルコンテナを作成した後、Access Manager コンソールにログインして新しいユーザーを作成すると、ピープルコンテナが見つからないためにそのユーザーは作成されません。

これは、Directory Server が制限時間前に多数のピープルコンテナを見つけたとしても、UMCreateUserModelImpl.getPeopleContainers() がサーチ時間の制限エラーで失敗するためです。

#### 回避策

Access Manager コンソールで「ピープルコンテナを表示」を有効にしてから、特定のピープルコンテナに移動し、そこでユーザーを作成します。

### 読み取り専用アクセス権を持つ最上位のヘルプデスク管理者ロールが新しいユーザーを作成できる (#5109348)

現在、ヘルプデスク管理者ロールのデフォルトは「完全アクセス」に設定されています。そのロールを「変更」に変更すると、ナビゲーションフレームの「新規」および「削除」ボタンは無効になりますが、管理者は依然としてユーザー入力プロパティを変更できます。

#### 回避策

「ヘルプデスク管理者」プロパティページを起動し、表示を「利用可能なアクション」に変更します。「ユーザー」行を見つけて、設定を「完全アクセス」から「変更」に変更します。

### アフィリエイトエンティティのアフィリエイトオプションを選択すると例外がスローされる (#6203563)

連携管理モジュールでは、「アフィリエイト」の「エンティティ」ページで「表示」>「アフィリエイト」を選択すると例外がスローされます。

#### 回避策

JSP を変更して、高さ属性が、閉じた JATO タグの外側に来るようにします。FSAffiliateProfile.jsp で、行 104 を次のように変更します。

```
<td width="1%"> height="1" alt=""></td>
```

/> が、高さ属性の前に来るようにしてください。

**アフィリエイト表示オプションのエラー (#6194139)**

連携管理モジュールのアフィリエイト表示オプションがメニュー内の唯一のオプションであり、それがデフォルトに設定されていると、Access Manager はエラーページを戻します。

**ピープル管理者ロールとして、ユーザーのサービスを変更できない (#6174652)**

最上位のピープル管理者ロールとしてログインしている場合は、ユーザーに新しいサービスを追加できますが、どのサービスも変更できません。

**回避策**

ピープル管理者ロールの表示プロファイルを編集して、必要な表示メニューと利用可能なアクションを指定します。

**「戻る」ボタンをクリックすると値が保存されていない (#4992972)**

グループ、ロールの作成やポリシーへの条件の追加など、複数ページプロセスが存在する状態で「戻る」ボタンを選択した場合はいつでも、前のページの値は復元されません。

**連携管理モジュールのホストプロバイダの更新に関する問題 (#4915894)**

連携管理モジュールで、ホストプロバイダのアイデンティティプロバイダ表示で属性を変更および保存した場合、変更は保存されますが、表示は自動的に更新されません。

**回避策**

別のモジュール ( サービス設定など ) を選択して連携管理モジュールを終了してから、連携管理モジュールに戻ります。この操作により、表示が更新されます。

**コンソールでユーザー属性の変更が更新されない (#4931455)**

Access Manager コンソールのナビゲーションフレームでは、データフレームで作成されたユーザー属性値を変更しても、その変更が適用された状態に更新されません。ページを手動で更新して、変更した値を表示します。

**Internet Explorer に関するポートの問題 (#4864133)**

Internet Explorer とは互換性がないため、Access Manager ポート番号として http の実行中にポート 80 を使用したり、https の実行中にポート 443 を使用しないでください。

## ロギングサービス

### Java Security 有効時のロギングに関する問題 (#4926520)

Java Security が有効になっている場合、jdk\_logging.jar が機能しないことがあります。

#### 回避策

Java Security が有効になっているときに、1.4 より前のバージョンの J2SE SDK を使用している場合は、次の権限を java セキュリティファイルに追加します。

```
permission java.lang.RuntimePermission shutdownHooks
```

## ポリシー

### nslookupthrough の限度に達すると一致するエントリが戻されない (#5013538)

nslookupthrough で定義された管理上の制限に達した後でも、一致するエントリは Access Manager コンソールに戻されません。

#### 回避策

nslookupthroughlimit のパラメータを調整して、エントリの数を補正します。

### ポリシーがエイリアスのトークンに適用されない (#4985823)

ユーザーエイリアスを使用して、LDAP やメンバーシップではなく承認モジュールに対して Access Manager にログインし、保護されたリソースへのアクセスを試みると、アクセスは拒否されます。

### ポリシーサンプルに関する問題 (#4923898)

ポリシーサンプルにある Readme.html には、サンプルが動作しない原因が記載されていません。

#### 回避策

サンプルを実行するには、LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数に NSPR、NSS、および JSS 共有ライブラリへのパスを含める必要があります。LD\_LIBRARY\_PATH に /usr/lib/mps/secv1 (Solaris システムの場合) または /opt/sun/private/lib (Linux システムの場合) を含むように設定します。



# Access Manager SDK

## 最上位の組織で、ネーミング属性の属性の一意性が壊れる (#6204537)

最上位の組織では、ネーミング属性の属性の一意性が機能しません。ただし、ユーザーと組織の属性の一意性は正しく適用されます。

## 持続検索の接続を取得できない場合に、EventService がタイトループに陥る (#6205443)

複数の持続検索が接続されている場合でも、EventService (ES) スレッドはリスナーを正常に追加します (LDAP JDK がリスナーを正常に追加する)。しかし、ES スレッドが応答を取得しようとする、LDAPResponse は持続検索の接続が使用できないと報告します (エラーコード 51)。そこで、ES はリスナーを再度確立しようとし、そのために、タイトループに入ります。

## SSL サーバーを使用する Access Manager SDK インストールに対する certutil の使用 (#5027614)

SSL が有効になっている Access Manager サーバーを含む SDK 専用マシンから通信しようすると、セキュリティ関連のエラーや例外が発生します。このシナリオでは、Access Manager SDK は、Web コンテナ以外に配備されているか、BEA WebLogic Server や IBM WebSphere Application Server などのサードパーティの Web コンテナに配備されています。

## 回避策

SDK 専用マシン上に証明書データベースを作成し、そのデータベース内に Access Manager サーバー用のルート CA 証明書をインストールします。

1. SDK 専用マシンにスーパーユーザー (root) としてログインします。
2. 必要な Netscape Security Services (NSS) パッケージがインストールされていることを確認します。
  - Solaris システム : SUNWt1su
  - Linux システム : sun-nss RPM
3. このパッケージがインストールされていない場合は、インストールします。たとえば、次のように指定します。

Solaris システム :

```
cd
JavaEnterpriseSystem_base/Solaris_arch/Product/shared_components/Packages
pkgadd -d . SUNWt1su
```

Linux システム :

```
cd JavaEnterpriseSystem_base/Linux_x86/Product/shared_components/Packages
rpm -Uvh sun-nss-3.3.10-1.i386.rpm
```

4. 該当の証明書データベースのトークンパスワード用のパスワードファイルを作成します。たとえば、次のように指定します。

Solaris システム :

```
echo "cert-database-password" > /etc/opt/SUNWam/config/.wtpass
chmod 700 /etc/opt/SUNWam/config/.wtpass
```

Linux システム :

```
echo "cert-database-password" > /etc/opt/sun/identity/config/.wtpass
chmod 700 /etc/opt/sun/identity/config/.wtpass
```

ここで、*cert-database-password* はトークンパスワードです。

5. LD\_LIBRARY\_PATH 変数をチェックします。

Solaris システムの場合、LD\_LIBRARY\_PATH をチェックして、*/usr/lib*、*/usr/lib/mps/secv1*、および */usr/lib/mps* ディレクトリが存在するかどうかを確認します。いずれかが存在しない場合は、不足しているディレクトリを追加します。

Linux システムの場合、LD\_LIBRARY\_PATH をチェックして、*/opt/sun/private/lib* ディレクトリが存在するかどうかをチェックします。存在しない場合は、このディレクトリを追加します。

6. 証明書データベースツール (*certutil*) を使用して、証明書と鍵データベースを作成します。*certutil* の詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://mozilla.org/projects/security/pki/nss/tools/certutil.html>

たとえば、次のように指定します。

```
certutil-home/certutil -N -d cert-database-dir -f config-home/.wtpass
```

ここで、

*certutil-home* は *certutil* の格納場所です。

- Solaris システム : */usr/sfw/bin*
- Linux システム : */opt/sun/private/bin*

*cert-database-dir* は、証明書と鍵データベースのデータベースディレクトリです。

*config-home* は、Access Manager 設定ファイルの格納場所です。

- Solaris システム : */etc/opt/SUNWam/config*
- Linux システム : */etc/opt/sun/identity/config*

7. 新しく作成した証明書データベースに、Access Manager サーバーにインストールされている SSL 証明書用のルート CA 証明書を追加します。たとえば、次のように指定します。

```
certutil-home/certutil -A -n "certificate-nickname" -t "TCu,TCu,TCuw" -d
cert-database-dir -a -i path-to-file-containing-cert -f
config-home/.wtpass
```

8. エディタを使用して `AMConfig.properties` ファイルを表示し、次の値を確認します。
  - 証明書データベースディレクトリ: `com.iplanet.am.admin.cli.certdb.dir`
  - プレフィックス: `com.iplanet.am.admin.cli.certdb.prefix`
  - パスワードファイル: `com.iplanet.am.admin.cli.certdb.passfile`正しくない場合は、必要に応じて設定を編集します。たとえば、プレフィックスの設定は空(つまり、`""`)にしてください。
9. `AMConfig.properties` に変更を加えられていて、Access Manager SDK が Web コンテナ内に配備されている場合は、Web コンテナを再起動します。

#### SSL ハンドシェイクが JCE プロバイダを使う DNS エイリアスで失敗する (#5038876)

`subjectaltname` に有効な DNS エイリアス名がある証明書が JCE プロバイダで使用される場合、SSL ハンドシェイクが失敗します。

#### フィルタの `init()` の Identity メソッドによって Weblogic に障害が発生する (#5016283)

フィルタの `init()` メソッドに Access Manager 関連のコードがある場合、WebLogic サーバーは起動しません。Access Manager API は、ServletFilter サブプレットの `init` メソッドで呼び出されます。

デフォルトでは、Access Manager はセキュリティプロバイダとして JSS を使用しますが、WebLogic は JCE を使用します。`init` メソッドが呼び出されると、WebLogic は JCE を使用してライセンスの妥当性を検査しようとしていますが、JSS が初期化されます。

#### 回避策

`AMConfig.properties` ファイルで、デフォルトのセキュリティ暗号化方式を `JSEncryption` から `JCEEncryption` に変更します。

#### {SSHA} 記号で始まるすべてのパスワードが使用不可能 (#4966191)

Access Manager は、パスワード内で、ハッシュ化された {SSHA} 記号を使用することをサポートしていません。

#### グループ作成オプションを使用しても、1 つの memberURL 属性しか追加されない (#4931958)

複数 LDAP フィルタオプション (`-f`) を使用してグループを作成すると、1 つの memberURL 属性しか持たないグループが誤って作成されます。

## チューニング

Solaris-x86 の場合、amtune とそれに関連するファイルが提供されない (#6213019)

Solaris-x86 の場合、このリリースでは、amtune スクリプトとそれに関連するファイルが適切なディレクトリにインストールされません。

### 回避策

Sparc-Solaris 用に提供された amtune ファイルを使用してください。

amtune-as8 スクリプトにパスワードファイルのエラーが含まれている (#6212380)

一時パスワードファイルが asadmin パスワードを使用して作成されているため、amtune スクリプトを使用した Application Server 8 の自動チューニング (amtune-as8) は機能しません。現在、このファイルにはパスワードのみが含まれています。

### 回避策

amtune-as8 で、次の構文を使用して文字列を入力します。

```
"TOKEN=Value"
```

たとえば、次のように指定します。

```
"AS_ADMIN_PASSWORD=11111111"
```

amtune-env: に変更を入力します。

```
#ASADMIN=$CONTAINER_BASE_DIR/bin/asadmin
```

```
ASADMIN=/opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin
```

## シングルサインオン

URI が一致しないと、SSO を実行できない (#4770271)

2 つの異なる Access Manager インスタンス間で配備 URI が一致しない場合には、シングルサインオンは正しく機能しません。

## 国際化 (i18n)

グループ名がマルチバイトのとき、グループメンバーがリストに表示されない (#6197041)

国際バージョンの Access Manager 6 2005Q1 では、グループ名がマルチバイトの場合、グループメンバーが Access Manager コンソールのリストに表示されません。

Linux で、開始および停止メッセージが判読できない (#6207421)

簡体字中国語、繁体字中国語ロケールにおける Access Manager の開始および停止メッセージは判読できません。この状態は Linux プラットフォームで発生します。

英語以外のロケールで HTTPBasic および WindowsDesktopSSO にログインできない (#6209324)

英語以外のロケールでは、HTTPBasic および WindowsDesktopSSO 認証モジュールにログインできません。

### 回避策

XML ファイルで、次のパラメータを英語に戻します。

```
HTTPBasic.xml: <HTTPHeader>Authorization</HTTPHeader>
```

```
WindowsDesktopSSO.xml: <HTTPHeader>Authorization</HTTPHeader>
```

Access Manager が Application Server に配備されている場合、これらのファイルは通常、次のディレクトリにインストールされています。

```
/var/opt/sun/appserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/amserver/config/auth/default_<lang>
```

Access Manager が Web Server に配備されている場合、これらのファイルは通常、次のディレクトリにインストールされています。

```
/opt/sun/webserver/https-<host>/is-web-apps/services/config/auth/default_<lang>
```

日本語のオンラインヘルプが誤って表示される (#5024138)

Access Manager の日本語バージョンの実行中に、言語を en\_US に変更しても、日本語ヘルプコンテキストが引き続き表示されます。

### 回避策

docs\_en から docs\_en\_US へのシンボリックリンクを作成します。

クライアントディテクション機能が正しく機能しない (#5028779)

「クライアントディテクション」サービスでは、UTF-8 の削除が正しく機能しません。

### 回避策

UTF-8 文字セットを削除する場合、変更を行った後に Web コンテナを再起動してください。

### G11NSetting が q 係数でスペースを処理しない (#5008860)

クライアントのデータの q 係数の中またはその前後にスペースがある場合、G11NSettings コードは正しくパースすることができず、次のエラーを戻します。

```
ERROR: G11NSettings::Fetchcharset() Unable to parse charset entry invalid Q q
```

### ja 文字セットに対して URL にマルチバイトのロールパラメータを指定すると、ログインページでエラーが発生する (#4905708)

マルチバイトのロールを作成してから、そのマルチバイトのロールに登録されているユーザーとして URL にログインしようとする、ログインページでエラーが発生します。

#### 回避策

URL に指定されたマルチバイトのロールの値を認証フレームワークでデコードするには、パラメータと一緒に `gx_charset` を指定する必要があります。たとえば、次のように指定します。

```
http://hostname:port/amserver/UI/Login?role=manager?role=%E3%81%82%&gx_charset=utf-8
```

### ログファイルが ja ロケールで文字化けする (#4882286)

次のログファイルには日本語文字が含まれており、開くと文字化けします。

`deploy.log` と `undeploy.log` を除く、`/var/opt/SUNWam/debug` ディレクトリ内のすべてのファイル。

### URL にロケールパラメータを指定すると、文字が混在したログインページが表示される (#4915137)

Web Server と Access Manager のインスタンスが一緒にインストールされている環境で英語以外の言語のブラウザを使用している場合に、`http://host:port/amserver/UI/Login?locale=en` にログインすると、表示されたログインページに英語と英語以外の文字が混在します。

#### 回避策

次のシンボリックリンクを英語ロケール用に変更します。

```
AccessManager-base/SUNWam/web-apps/services/config/auth/default
```

次に変更した例を示します。

```
AccessManager-base/SUNWam/web-apps/services/config/auth/default_en
```

### Application Server が ja のときにログインウィンドウにロケールが混在する (#4932089)

ブラウザの言語設定が `en` のときに、Application Server のロケールが `ja` に設定されている場合には、Access Manager のログインウィンドウのデフォルト値は英語にはなりません。

#### 回避策

Application Server のロケールを `en` に設定してから Application Server を実行します。

**ロックアウト通知から送信される電子メールが判読できない (#4938511)**

優先ロケールが c 以外に設定されている Web コンテナを使用して Access Manager を実行しているときに、ユーザーがそのサーバーからロックアウトされると、判読できないロックアウト通知の電子メールが送信されます。

**回避策**

「ロックアウト通知の送信先電子メールアドレス」属性に、email パラメータだけでなく email|local|charset も設定します。たとえば、次のように指定します。

```
user1@example.com|zh|GB2312
```

**自己登録でマルチバイトの名前が機能しない (#4732470)**

重複したユーザー ID およびマルチバイトの姓と名を使って自己登録 (メンバーシップ認証サービス) でユーザーを作成する場合、エラーが発生します。マルチバイトのユーザー ID はサポートされていません。

**回避策**

ユーザーがマルチバイト環境で自己登録を使用してログインする場合、管理者は、コア認証の「ユーザー ID 生成モードを有効」属性が選択されていないことを確認する必要があります。

または

ユーザーは、自己登録ログインページで「別のユーザー名を作成」オプションを選択できます。

**日本語バージョンの Access Manager で Netscape 6.22 および 6.23 を使用できない (#4902421)**

日本語バージョンの Access Manager では、Netscape 6.22 または 6.23 を使用してコンソールにログインできません。

**「時間」条件の形式が変化しない (#4888416)**

ポリシー定義の「時間」条件では、ロケールにかかわらず次の形式から時刻表示を変更できません。

```
Hour:Minute AM/PM
```

**クライアントディテクション画面がローカライズされていない (#4922013)**

このリリースでは、「クライアントディテクション」インタフェースの「現在のスタイルのプロパティ」画面の一部がローカライズされませんでした。

**更新した genericHTML クライアントプロパティが適用されない (#4922348)**

「クライアントディテクション」サービスの genericHTML クライアントプロパティの文字セットのリストから UTF-8 を消去し、その変更を保存して、「クライアントディテクション」を有効にしてから、ログアウト後に再度ログインしても、ログインページは UTF-8 の文字セットのままです。

**回避策**

amsrver を使用して、サーバーを手動で再起動します。

### ログファイルヘッダがローカライズされていない (#4923536)

すべてのログファイルの最初の 2 行がローカライズされていません。具体的には、Version セクションと Fields セクション、およびそれらのすべてのフィールドです。

### amSSO.access の Data フィールドの値がローカライズされていない (#4923549)

amSSO.access ログファイルでは、Data フィールドのすべての値がローカライズされていません。

### Exception.jsp にハードコードされたメッセージがある (#4772313)

Exception.jsp はローカライズされていません。つまり、ハードコードされたタイトル、エラーメッセージ、および著作権情報が含まれています。この例外的なエラー jsp ページは非常事態の場合にのみ呼び出されます。たとえば、Directory Server がダウンしたり、Access Manager サービスがまったく機能不能になり、この JSP ページのローカリゼーションが利用できない場合などです。

## Cookie

### Cookie なしのモードが機能しない (#4967866)

Cookie をサポートするブラウザが Access Manager にアクセスし、Cookie サポートが無効になっている場合、ブラウザは以前の Access Manager Cookie の送信を続けます。この問題によって、Access Manager リソースへのアクセスが拒否されます。

### 回避策

次の回避策の中から 1 つを選択します。

- ブラウザの Cookie キャッシュを消去して Access Manager Cookie をすべて削除します。
- ブラウザの Cookie を無効にします。

## Cookie ハイジャック

セッション Cookie を使用するアプリケーションが信頼できない場合、セキュリティが危険にさらされる可能性があります。

使用している Access Manager の配備で、シングルサインオン (SSO) やクロスドメインシングルサインオン (CDSSO) が有効な場合、http(s) セッション Cookie はユーザーのブラウザで設定されます。これらの Cookie は複数のアプリケーションで妥当性検査されます。Access Manager が複数の DNS ドメインにわたり配備されている場合、Liberty プロトコルは、認証済みの DNS ドメインから Web アプリケーションのターゲットドメインに http(s) セッション Cookie を転送します。



ユーザーは自動的に Web リソースにサインオンされますが、セッション Cookie を使用するアプリケーションが信頼できない場合、既知のセキュリティ上の弱点があります。アイデンティティプロバイダがユーザーについての認証、承認、およびプロフィールの情報を、サードパーティまたは社内の未承認のグループによって開発されたアプリケーションまたはサービスプロバイダに提供する場合、この弱点が現れることがあります。可能性のあるセキュリティの問題は次のとおりです。

- すべてのアプリケーションが同じ http セッション Cookie を共有。これによって要注意のアプリケーションがセッション Cookie をハイジャックして、別のアプリケーションに対してユーザーのように振る舞うことが可能である。
- アプリケーションが https プロトコルを使用しない場合、セッション Cookie はネットワーク盗聴されやすくなる。
- 1つのアプリケーションだけをハッキングできる場合でも、インフラストラクチャ全体が危険にさらされる。
- 要注意のアプリケーションはセッション Cookie を使用して、ユーザーのプロファイル属性を取得することができ、さらに修正してしまう可能性もある。ユーザーに管理権限が与えられている場合は、そのアプリケーションによってさらに多くの損害が発生する可能性がある。

## 回避策

次の手順に従います。

1. Access Manager 管理コンソールを使用して各エージェントのエントリを作成します。
  - a. エントリの作成が必要なエージェントを含む組織で、「表示」メニューから「エージェント」を選択し、「新規」をクリックします。
  - b. 次の情報を入力します。

**名前:** エージェントの名前またはアイデンティティを入力します。例: agent123

**パスワード:** エージェントのパスワードを入力します。例: agent123

**パスワード (確認):** パスワードを確認します。

**説明:** エージェントの簡単な説明を入力します。たとえば、エージェントインスタンス名またはそれが保護しているアプリケーションの名前を入力できます。

**エージェントキー値:** エージェントプロパティをキーと値のペアで設定します。このプロパティは、ユーザーに関する資格のアサーションを求めるエージェントの要求を受信するため、Access Manager によって使用されます。

agentRootURL のプロパティ値として、ポート番号のあるエージェント URL と同じ値を入力します。agentRootURL 値は大文字と小文字が区別されます。

例: agentRootURL=http://server\_name:99/

**デバイスの状態:** エージェントのデバイスの状態を入力します。「アクティブ」に設定されている場合、エージェントは Access Manager に対して認証および通信を行うことができます。「非アクティブ」に設定されている場合、エージェントは Access Manager に対して認証を行うことができません。

c. 「了解」をクリックします。

- 手順 1b で入力したパスワードに関して、次のコマンドを実行します。

```
AccessManager-base/SUNWam/agents/bin/crypt_util agent123
```

これにより、次の情報が出力されます。

```
WnmKUCg/y31404ivWY6HPQ==
```

- AMAgent.properties を変更して、新しい値を反映させてから、エージェントを再起動します。  
例：

```
# The username and password to use for the Application authentication
module.

com.sun.am.policy.am.username = agent123
com.sun.am.policy.am.password = WnmKUCg/y31404ivWY6HPQ==

# Cross-Domain Single Sign On URL
# Is CDSSO enabled.
com.sun.am.policy.agents.cdsso-enabled=true

# This is the URL the user will be redirected to after successful login
# in a CDSSO Scenario.
com.sun.am.policy.agents.cdcervletURL =
http://server.example.com:port/amserver/cdcervlet
```

- AMConfig.properties を変更して、新しい値を反映させてから、Access Manager を再起動し  
ます。

例：

```
com.sun.identity.enableUniqueSSOTokenCookie=true
com.sun.identity.authentication.uniqueCookieName=sunIdentityServerAuthNS
erver

com.sun.identity.authentication.uniqueCookieDomain=example.com
```

5. Access Manager 管理コンソールで、「サービス設定」>「プラットフォーム」を選択します。
6. 「Cookie ドメイン」リストで、Cookie ドメイン名を次のように変更します。
  - a. デフォルトのドメイン「iplanet.com」を選択し、「削除」をクリックします。
  - b. Access Manager インストールのホスト名を入力し、「追加」をクリックします。

例: server.example.com

ブラウザに、次の 2 つの Cookie が設定されていることを確認します。

Cookie	ホスト名
iplanetDirectoryPro	server.example.com
sunIdentityServerAuthNServer	example.com

---

## 再配布可能ファイル

Sun Java System Access Manager 2005Q1 には、製品のライセンスを取得していないユーザーに再配布できるファイルは含まれていません。

---

## 問題の報告およびフィードバックの提供方法

Sun Java System Access Manager に関する問題が発生した場合には、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートまでご連絡ください。

- Sun ソフトウェアサポートサービスオンラインの Web サイト  
<http://www.sun.com/supporttraining>  
このサイトには、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと保守プログラムおよびサポートの連絡先電話番号へのリンクがあります。
- 保守契約に関連する緊急電話番号

最善の問題解決のため、テクニカルサポートに連絡する際はあらかじめ次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明

- エラーログやコアダンプ

## コメントの送付方法

弊社ではマニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよび提案を歓迎いたします。フィードバックには、次の Web ページのフォームをご使用ください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

該当の欄にマニュアルの正式タイトルと Part No. をご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このリソースノートの Part No. は 819-1946 です。

---

## Sun が提供しているその他の情報

その他の Sun Java System 情報については、次の Web サイトを参照してください。

- Sun Java System マニュアル  
<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q1>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem/>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス  
<http://www.sun.com/software/>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス  
<http://www.sun.com/supporttraining>
- Sun Java System サポートおよびナレッジベース  
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem>
- Sun Java System 開発者用情報  
<http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス  
<http://www.sun.com/developers/support>

---

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

Sun が提供しているその他の情報